

プール遊び・水遊びの安全マニュアル

1 安全対策

○緊急事態への対応と事故防止について

- ・プール事故集合訓練の実施（訓練の中で救命処置の手順・職員の動きを確認する）
※別紙資料配布
- ・心肺蘇生法・AED 講習会の実施（資料配布）
- ・熱中症に関する講習会の実施（資料配布）
- ・プール監視者の役割についての講習会の実施（資料配布）



2 活動実施の判断

○プール遊びができる環境かどうか（一つでも当てはまる時は中止する）

- ・気温 35℃以上、暑さ指数（WBGT）31℃以上。（熱中症アラートが出ている時）
- ・上限温度目安：水温+気温が50℃未満または65℃以上の時
- ・PM2.5 の注意喚起の時
- ・雨天、強風、雷など天候不良の時
- ・職員の数が少ない等、十分な監視体制が確保できない時



3 環境の整備

○プールに入る日に行うこと

- ・プールサイドにテントを設置し、日よけ対策を行う
- ・プールの清掃、整理を行う
- ・プールに破損や亀裂がないか確認する
- ・ビニールプールや浮き輪は空気が抜けていないか確認する
- ・プールサイドに危険なものが落ちていないか確認する



4 準備物

・塩素剤	・残留塩素測定器・試薬	・気温計・水温計
・足ふきマット	・時計	・緊急時の手順セット
・応急手当セット	・毛布	・バスタオル
・排泄処理セット	・嘔吐処理セット	・ゴミ箱
・玩具	・プール日誌	・(AED) 置き場所を確認

5 活動前

(プール)

- 適正な遊離残留塩素濃度になっているか確認する。(遊離残留塩素濃度 0.4~1.0mg/L)
- 破損している玩具がないか確認する
- 後半に入るクラスは、プールに入る前に再度水温を確認する

(子ども)

- 連絡帳で睡眠、食欲、元気があるか確認する
- 体温、顔色、機嫌、便の状態等、子どもの健康状態を把握する
- 目ヤニ、充血、鼻水、発疹(とびひ、水いぼ、手足口病)等がないか確認する
- 傷(出血、化膿等)はないか確認する
- 水分補給を行う
- シャワーで体を洗ってからプールに入る



(職員)

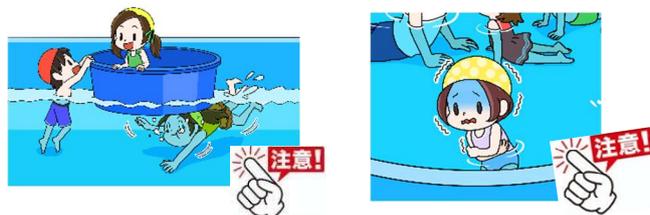
- 職員の健康状態を確認する
- プールに入る子どもの人数の把握を行う
- 職員間で役割分担(監視を行う人、プール指導を行う人)を行う
- 子どもとお約束や入り方の確認をする



6 活動中

(プール指導を行う職員)

- 子どもの健康状態(顔色や身体の様子)を確認する
- 子どもの人数を5分おきに確認する
- 浮き島の下などに潜り込まないように気を付ける
- 入水中に排便があった時には、プールから子どもをあげ、便をとって水を流す



(監視を行う職員)

- 誰が見ても「監視者」とわかるように、目印等を決めておく。(帽子、タスキ、ゼッケン、緊急時の笛等を活用する等)

☆子どもたちと遊んだり、プール指導者の補助をせず、監視に専念する

- 入水せず、プールサイドから水面、水の中をくまなく監視する
- プールに入っている子どもの人数を把握し、適宜確認する
- 動かない子や不自然な動きをしている子がいらないか確認する
⇒静かに溺れることが多い
- 特定の子どもに視線を固定せず、個々の特性を理解し、定期的に視線を動かしながら全体を監視する。⇒異常かどうかの見極めは、顔(特に目)を見る。
- 持ち場を離れる時は、代わりの職員を配置する
- 子どもが全員プールからあがるまで目を離さない



監視者は子どもと遊ばない!
監視に専念!



持ち場を離れない!
代わりの職員を配置!



目を離さない!
園児が上がってから片付け!



子どもを先に
プールへ入れない



監視を行う人、プール指導
を行う人をしっかり分ける



全員プールからあがるまで
目を離さない!

7 活動後

- 子どもがプールから全員あがっているか確認する
- シャワーで体を洗い流し、タオルでしっかり拭く
- 子どもの健康状態(顔色、身体の様子、怪我など)を確認する
- 水分補給をする
- 部屋の温度が適切かどうか確認する
- プール内に遊具が残っていないか確認し、浮き輪などは飛ばないようにまとめる
- プールや玩具に破損がないかを確認する
- プール活動最後のクラスは、プールの水を抜く

